

2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月10日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <https://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役会長兼CEO（氏名）浅倉 俊一
 問合せ先責任者（役職名）常務取締役（氏名）三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 半期報告書提出予定日 2024年10月15日 配当支払開始予定日 2024年11月1日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前期中間増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	78,759	4.0	1,825	△27.6	2,037	△27.1	1,219	△31.8
2024年2月期中間期	75,706	0.9	2,520	△27.9	2,793	△25.0	1,787	△15.3

(注) 包括利益 2025年2月期中間期 1,176百万円(△36.4%) 2024年2月期中間期 1,851百万円(△13.7%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	40.43	40.38
2024年2月期中間期	59.30	59.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期中間期	94,721	31,409	31.90
2024年2月期	88,318	30,975	33.73

(参考) 自己資本 2025年2月期中間期 30,212百万円 2024年2月期 29,790百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	19.0	—	19.0	38.0
2025年2月期	—	19.0			
2025年2月期(予想)			—	19.0	38.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	157,400	5.1	4,000	△2.6	4,500	△2.6	2,400	1.1	79.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期中間期	30,193,386株	2024年2月期	30,193,386株
② 期末自己株式数	2025年2月期中間期	161,171株	2024年2月期	10,316株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年2月期中間期	30,168,619株	2024年2月期中間期	30,141,421株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結会計期間	7
中間連結包括利益計算書	8
中間連結会計期間	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年3月1日~2024年8月31日)におけるわが国経済は、賃上げによる所得環境の改善により個人消費の拡大やインバウンド需要の拡大も見込まれる中で緩やかながら景気回復基調へ向かうものと期待されますが、一方で賃上げが進む中、所得環境の改善が物価高に追いつかず、個人消費は弱含みで推移しております。また、ゼロ金利政策解除による金利負担上昇懸念や継続する為替の円安基調など、依然として経済活動の先行き不透明な状況が継続しております。

当社グループが主に事業展開するホームセンター業界は、物価高の影響から節約志向が根強い中で客数減少傾向が続いており、他業態との価格競争が激化するなか価格転嫁の巧拙を問わず企業収益の確保が困難な状況であります。

このような状況下で、当社グループは「Challenge3000」営業収益3,000億円、経常利益率5%をグループ目標として掲げ、中期成長戦略として中核事業であるホームセンター事業を中心に、収益基盤を強化するため「MD改革」としてPB商品の売上構成比率20%の実現と棚割改革、地域一番商品の育成に注力して参りました。

当期は投資採算を重視した成長投資、資本効率ならびに財務体質の強化をグループの成長戦略課題としており、設備投資の回収可能性を継続的にトレースすることで投資効率の最適化を図っております。

下期においては資産の適正化として店舗における商品在庫の管理精緻化を目的としたプロジェクトを組織し、適切な発注回数設定、取扱い品種セレクト、適正在庫数の設定などローコストかつお客様が買物をしやすい売り場環境を整備することで、収益拡大を図るだけでなく、資産効率を高めグループの財務体質を改善することでグループの持続的成長力の基盤強化に取り組んで参ります。

当中間連結会計期間における新規出店としましては、ペット専門店4店舗、プロショップ2店舗を新たに開設し、ホームセンター1店舗、ペット専門店6店舗、自転車専門店1店舗をそれぞれ閉店しております。これにより当中間連結会計期間末の店舗数は302店舗となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結営業収益は、787億5千9百万円(前年同期比4.0%増)、連結営業利益は18億2千5百万円(前年同期比27.6%減)、連結経常利益は20億3千7百万円(前年同期比27.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は12億1千9百万円(前年同期比31.8%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で1.2%減少し、客単価が前年同期比で1.4%増加したことにより既存店売上高は0.2%の増加となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、ホームセンターの主力部門である園芸、植物、農業資材の売上につきましては、期初3月は降雪日が多く寒冷低温であったことから売上が大きく計画数値を割込みましたが、一方で灯油、カイロ、石油暖房等の寒さ対策商品の需要が増加いたしました。以降は気温も持ち直し平均気温が前年より高く推移したことで農業除草剤、刈払機、用土、堆肥類などの売上が堅調に推移いたしました。また好天の影響で早い時期からエアコン、扇風機、よしずなどの季節商品が好調であったこと、強化しているリフォーム関連の売上が前年同期比で伸長したこともあって中間期全体を通じて客数減少の傾向が継続し厳しい消費環境が続いておりますが前年同期比で増収となっております。

EC部門につきましては、主要な購買チャネルとしてユーザーのライフスタイルに定着しておりEC取扱高も年々伸長の一途をたどっている中で、配送料の値上げなどコスト増もありますが、新商品、季節商品など取扱い品目の充実、即日発送対応商品の取扱い拡大といった更なるユーザーサービスの向上に努めたこともあって前年同期比で売上高が伸長しております。

利益面につきましては、期初の寒冷低温の影響で灯油の売上構成比率が相対的に大きかったことが、前年同期比で全体の荒利率を低下させる要因となりました。

コスト面につきましては、既存店改装による一時費用や設備修繕費のほか人件費、集配送費の増加、キャッシュレス決済手数料、ECサイト販売手数料等のコスト負担増加の影響で販売費及び一般管理費が前年同期比で増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は243億9千万円(前年同期比5.6%増)、セグメント利益(営業利益)は4億6千1百万円(前年同期比28.2%減)となりました。

[タイム]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で4.3%減少、客単価が前年同期比で2.5%増加したことにより既存店売上高は2.0%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、早期需要の取り込みで殺虫剤、強化販売施策により大人おむつなどの介護用品や値上げ前の駆け込み需要によりトイレットペーパーやボックスティッシュなどの紙商品が好調に推移したほか節約志向の中で米・食品・飲料などのケース販売の売上が好調でありました。またホームセンタータイムの主要出店エリアである中四国地方において宮崎県地震を受けて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたことや台風の影響もあって防災・災害対策関連商品の特需がありましたが、最需要期での天候不順により、DIY関連商品、花苗、鉢花などの植物や園芸用品・農業資材の売上が大きく低迷したほか、中間期全体を通して客数減少の影響が大きく前年同期比で減収となっております。

そのような状況の中で、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化するため既存店3店舗の改装を実施し、お客様に新たな発見をしていただけるよう新商品、話題商品への取組、テーマ性のある売場づくりによる需要創造、従業員の商品知識習得による販売力強化に取組んで参りました。

利益面につきましては、第1四半期中の天候不順の影響が大きく、主力の植物、園芸、農業資材等のホームニーズ商品が売上不振であったこと、また利益率の高い生活衛生商品の売上が前年比で減少したことで前年同期比で荒利率が低下しております。なお、中間期後半は、地震や台風の影響による防災特需があったことや、高利益率商品を新たに投入したことで一定の利益を確保するとともに、利益率も段階的に改善している状況であります。

コスト面につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励、作業計画に合わせた人員配置を行うことで残業時間の削減を進めコスト圧縮を図ったことで前年同期比で販売費及び一般管理費は減少しております。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は83億1千7百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は6百万円（前年同期比88.4%減）となりました。

[ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で1.3%減少、客単価が前年同期比で3.2%増加したことにより既存店売上高は1.8%の増加となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、当中間期は梅雨入りが例年より約2週間遅れたことで降水量が少なく好天の影響もあって除草関連商品、エアコン、空調服など夏物作業衣料が前年に比べ前倒しで売れました。夏場も猛暑の影響で冷風関連など季節家電や熱中症対策商品が好調に推移した一方で暑すぎることによって海・プール用品、花火など売上が減少するカテゴリもありました。また主要出店エリアである東海地方において「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたことにより防災関連商品の特需があったことや、度重なる台風の影響で対策商材需要が上がったことで災害対策商品の確保に努めたこともあって前年同期比で増収となっております。下期についても残暑が続いている中で植物や園芸関連、農作業の遅れなどその時々々の自然環境の変化に伴うお客様の変化を先取りして商品展開、サービス強化に取組んで参ります。

販売促進におきましては、デジタルチラシのみの販促に取組んでおり印刷・配布コストの削減だけでなく、新聞を取られていないお客様や来店されたお客様に向け、店頭告知・売場を活性することで販促効果を高めております。

EC事業におきましては、当期より展開している自社センターを活用し、コンテナ仕入による原価改善により価格訴求や利益改善につなげております。

当期8月1日にオープンした新店プロショップ「プロサイト岡崎店」は新たに小型店での資材併設パターンに取組んだことでオープン以降計画数値を上回っている状況であります。

コスト面につきましては、水道光熱費のコスト負担増加や期首に連結子会社である株式会社ホームセンター・アントを吸収合併し、旧ホームセンターアント5店舗の改装コストが一時的に発生したことで前年同期比で販売費及び一般管理費が増加しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は308億8千万円（前年同期比5.9%増）、セグメント利益（営業利益）は9億2千2百万円（前年同期比11.8%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットワールドアミーゴは既存店ベースで、客数が前年同期比で2.5%減少、客単価が前年同期比で1.7%増加したことにより既存店売上高は0.8%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、主力カテゴリーである犬猫フードの売れゆきが好調でありプレミアムフードやおやつのほか冷凍フードが伸長しております。また夏場は猛暑の影響でクール用品や夏物ウェアなどシーズナル商品の販売が好調でありました。サービス部門については、トリミングやドッグトレーニングなどの従来サービスに加えて、シャンプーやカットだけでなく美容効果を推奨するプレミアムスパコースや犬の幼稚園など、新たな付加価値サービスの利用が増加しておりますが、一方で犬猫生体販売頭数は減少しており、ペットケージやサークルなど関連飼育用品の販売数量も減少しております。また中間期全体を通して客単価は増加しているものの前年比で客数減少が継続していることで総体的に売上高が低下していることから既存店売上高は前期比で減収となっております。

コスト面につきましては、新店開設に伴う一時費用の発生や人件費の増加、キャッシュレス決済比率上昇に伴う取扱手数料などのコスト負担増加の影響で前年同期比で販売費及び一般管理費は増加しております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は109億4千6百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益（営業利益）は4億8千4百万円（前年同期比23.2%減）となりました。

[その他]

セグメント営業収益は93億3千8百万円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益（営業利益）は15億1千7百万円（前年同期比18.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が947億2千1百万円、負債が633億1千1百万円、純資産は314億9百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は31.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間までの状況及び今後の見通し等を勘案した結果、2024年4月10日付「2024年2月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表しました業績予想値の修正をしております。

詳細につきましては、本日公表の「2025年2月期第2四半期(中間期)連結業績予想値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,831	8,396
売掛金	2,237	2,859
棚卸資産	28,683	28,210
未収入金	5,438	5,985
その他	1,273	1,249
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	41,465	46,701
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	48,728	49,534
減価償却累計額	△26,243	△26,861
建物及び構築物(純額)	22,485	22,673
土地	4,458	4,458
リース資産	4,726	4,863
減価償却累計額	△1,897	△2,005
リース資産(純額)	2,828	2,857
その他	9,186	10,210
減価償却累計額	△7,286	△7,253
その他(純額)	1,899	2,957
有形固定資産合計	31,672	32,947
無形固定資産		
のれん	1,581	1,419
その他	5,362	5,271
無形固定資産合計	6,943	6,690
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,073	6,271
その他	2,195	2,142
貸倒引当金	△31	△31
投資その他の資産合計	8,237	8,382
固定資産合計	46,853	48,020
資産合計	88,318	94,721

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,355	15,266
電子記録債務	6,983	5,613
短期借入金	8,481	6,654
1年内返済予定の長期借入金	4,702	4,731
リース債務	1,787	2,090
未払法人税等	482	751
役員賞与引当金	41	1
契約負債	804	964
賞与引当金	523	573
店舗閉鎖損失引当金	14	78
その他	6,766	8,307
流動負債合計	39,944	45,032
固定負債		
長期借入金	10,896	12,074
リース債務	1,732	1,385
役員退職慰労引当金	149	154
退職給付に係る負債	1,106	1,141
資産除去債務	1,768	1,811
その他	1,744	1,710
固定負債合計	17,397	18,278
負債合計	57,342	63,311
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,011	2,011
資本剰余金	12,509	12,509
利益剰余金	15,201	15,847
自己株式	△9	△175
株主資本合計	29,713	30,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21	△3
退職給付に係る調整累計額	55	23
その他の包括利益累計額合計	77	19
新株予約権	19	19
非支配株主持分	1,165	1,177
純資産合計	30,975	31,409
負債純資産合計	88,318	94,721

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	73,582	76,521
売上原価	48,416	50,794
売上総利益	25,166	25,727
営業収入	2,123	2,238
営業総利益	27,289	27,965
販売費及び一般管理費	24,768	26,139
営業利益	2,520	1,825
営業外収益		
受取利息	12	12
受取配当金	4	4
受取手数料	199	215
為替差益	—	20
その他	132	120
営業外収益合計	349	373
営業外費用		
支払利息	40	77
借入手数料	5	67
為替差損	14	—
その他	15	16
営業外費用合計	76	161
経常利益	2,793	2,037
特別利益		
固定資産売却益	9	0
投資有価証券売却益	1	61
助成金収入	6	—
その他	1	—
特別利益合計	19	61
特別損失		
固定資産除却損	19	6
減損損失	—	152
投資有価証券評価損	3	4
閉店損失引当金繰入額	—	66
その他	0	7
特別損失合計	23	238
税金等調整前中間純利益	2,789	1,861
法人税、住民税及び事業税	1,038	742
法人税等調整額	△72	△135
法人税等合計	965	606
中間純利益	1,823	1,254
非支配株主に帰属する中間純利益	36	34
親会社株主に帰属する中間純利益	1,787	1,219

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
中間純利益	1,823	1,254
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	△45
退職給付に係る調整額	0	△32
その他の包括利益合計	27	△77
中間包括利益	1,851	1,176
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,804	1,161
非支配株主に係る中間包括利益	46	15

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,789	1,861
減価償却費	1,507	1,633
減損損失	-	152
のれん償却額	47	59
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	18	△14
株式報酬費用	28	25
受取利息及び受取配当金	△16	△17
支払利息	40	77
借入手数料	5	67
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	△61
投資有価証券評価損益 (△は益)	3	4
助成金収入	△6	-
固定資産売却損益 (△は益)	△9	△0
固定資産除却損	19	6
売上債権の増減額 (△は増加)	△427	△621
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△509	473
仕入債務の増減額 (△は減少)	503	4,540
未払消費税等の増減額 (△は減少)	270	△26
未収消費税等の増減額 (△は増加)	56	76
その他	△613	1,045
小計	3,705	9,282
利息及び配当金の受取額	8	7
利息の支払額	△40	△80
借入手数料の支払額	△6	△67
助成金の受取額	6	-
法人税等の支払額	△1,123	△57
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,549	9,085

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	10	121
投資有価証券の償還による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△1,583	△2,512
有形固定資産の売却による収入	14	2
有形固定資産の除却による支出	△27	△3
無形固定資産の取得による支出	△251	△114
貸付けによる支出	-	△0
貸付金の回収による収入	1	1
敷金及び保証金の差入による支出	△231	△285
敷金及び保証金の回収による収入	118	145
定期預金の預入による支出	△250	△250
定期預金の払戻による収入	250	381
その他	5	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,944	△2,570
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,931	△1,827
長期借入れによる収入	1,500	3,800
長期借入金の返済による支出	△2,549	△2,593
リース債務の返済による支出	△404	△453
配当金の支払額	△570	△574
自己株式の取得による支出	△0	△166
非支配株主への配当金の支払額	△6	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△100	△1,817
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	504	4,696
現金及び現金同等物の期首残高	3,348	3,546
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,853	8,243

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	22,821	8,352	29,135	10,697	71,007	4,698	75,706
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	267	97	11	—	376	4,593	4,969
計	23,088	8,450	29,146	10,697	71,383	9,291	80,675
セグメント利益	643	53	1,045	630	2,372	1,852	4,225

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,372
「その他」の区分の利益	1,852
セグメント間取引消去	△1,613
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	13
その他	△57
中間連結損益計算書の営業利益	2,520

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	23,974	8,221	30,864	10,946	74,008	4,751	78,759
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	415	96	16	—	528	4,587	5,115
計	24,390	8,317	30,880	10,946	74,536	9,338	83,875
セグメント利益	461	6	922	484	1,875	1,517	3,392

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,875
「その他」の区分の利益	1,517
セグメント間取引消去	△1,474
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	13
その他	△57
中間連結損益計算書の営業利益	1,825

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ダイユーエイト」、「ホームセンターバロー」および「アミーゴ」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間において、「ダイユーエイト」40百万円、「ホームセンターバロー」100百万円、「アミーゴ」0百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ホームセンターバロー」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、100百万円であります。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)に当該のれんの減損損失も含めて記載しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。